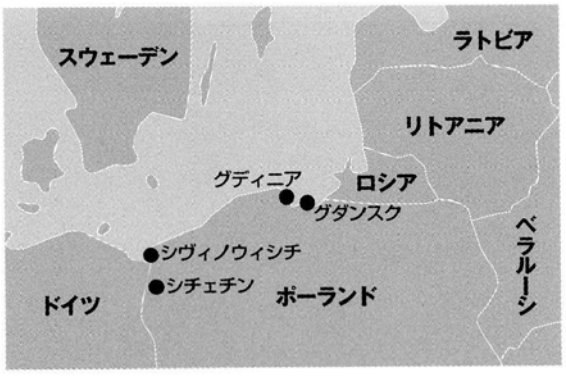
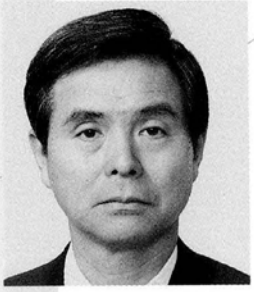
World Watching 26 ワールド・ウォッチング

ポーランドの港





栢原 英郎

社団法人日本港湾協会　理事長

東欧の港湾について語られることは少ないので、先々月号でご紹介をしたバルト海港湾機構（BPO）の調査の機会に訪ねた、ポーランドの港湾の概況を紹介し、その印象を報告することとしたい。

概況

ポーランドはバルト海に面したおよそ500kmの海岸線に、二つの港湾群をもっている。一つは東の国境近くのグダンスクーグディニアの二つの港であり、今ひとつは西の国境近くのシチェチンーシヴィノウィシチである。前者はビスワ川の河口、後者はオーデル川の河口にあって、それぞれ大陸深く、河川舟運で結ばれている。

2000年の全国の港湾取扱貨物量はおよそ4,700万トン、このうち4大港での扱い量は表ー1に示すように4,400万トンである。品目別の貨物の量から各港の機能を読みとることができる。コンテナ取扱量の総数は明かではないが、グディニア港では99年におよそ19万TEU、グダンスク港で2000年におよそ2万TEUである。ポーランドのコンテナ貨物の大半が隣国ドイツのハンブルグ港で取り扱われており、両港ともコンテナターミナルの増強、バルト海沿岸諸国との間を頻繁に結ぶフェリーターミナルの大型化が課題となっている。

以下、主要港の状況をごく簡単に紹介する。

●グダンスク港

この港の名は、ポーランドの民主化運動の先頭に立った「連帯」のワレサ氏が所属する造船所がこの港にあったため、我が国でも良く知られている。

取扱貨物に見られるごとくバルク貨物が主体であり、一般貨物についてはグディニア港にもっぱら任せている。

ハンザ同盟の一員でもあった歴史の古い港であり、背後に世界遺産ともなっている市街地が迫り、発展余地が少ない。このため河口右岸の海岸部を埋め立て、新規の企業立地、港湾施設の整備を進めている。

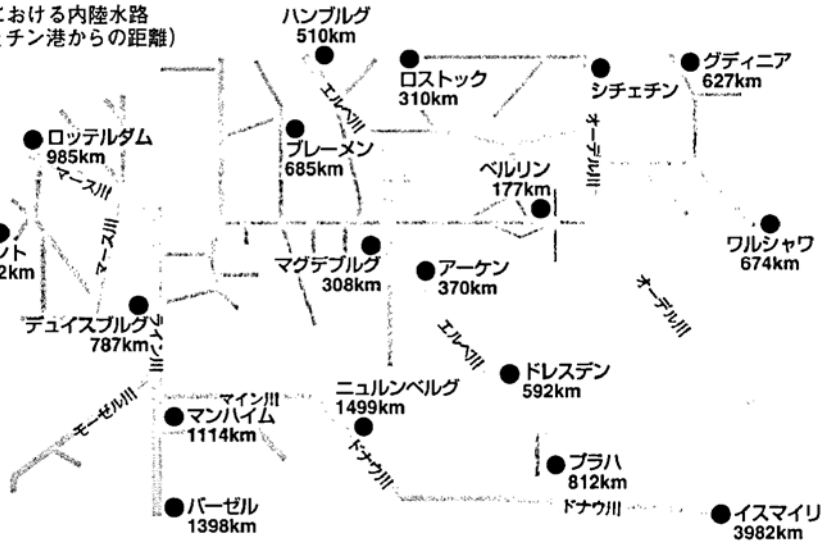
●グディニア港

小さな漁村でしかなかったこの地が1921年にポーランドの輸送回廊のための港のサイトとされ、26年から30年にかけて石炭の輸出港として急速に開発された。今日では、海運、貿易関連のビジネスの中心地であり、同時に、海軍基地、ポーランドアカデミーの漁業研究所、海洋生物研究所、商船高校などが集まる、海事関係組織の集積地でもある。また近年、バルト海に面し

表ー1　4大港の港湾取扱貨物量（2000年）　単位：1,000トン

	グダンスク	グディニア	シチェチン	シヴィノウィシチ	4港計
一般貨物	1,543	4,286	2,385	2,006	10,220
穀物	496	510	1,978	186	3,170
石炭	5,909	1,753	4,920	4,059	16,641
鉱石	74	11	763	2,040	2,888
その他のバラ貨物	2,457	1,675	1,813	196	6,141
液体貨物	6,061	333	743	170	7,307
木材	4	27	53		84
合計	16,544	8,599	10,253	8,622	44,018

図ー1　欧州における内陸水路
（数字はシチェチン港からの距離）



た保養地として注目を集めている。

バラ貨物が中心のグダンスク港に対し、こちらは一般貨物が主力である。

●シチェチン港

ドイツとの国境近くのオーデル川の河口から65km上流に形成された港であり、シヴィノウィシチ港と共に不凍港である。シチェチン市は古くはハンザ同盟の一員であった。20世紀のはじめには運河が開削され、ベルリンの外港の役割を期待された。今日では大工業港であると同時に文化、科学の中心地となっている。

●シヴィノウィシチ港

シビナ川の河口に形成されている港。一般貨物を扱うほか、スウェーデン、デンマークとのフェリーの基地ともなっている。

短い時間でポーランドの港を回る今回の訪問であったが、感銘を受けた二つのことについて最後に触れたい。

背後圏への多様なアクセスルートの整備

「河口港ー内陸水運により結ばれた背後圏」というのはヨーロッパの港の特徴のひとつであるが、ポーランドの港もその例外ではなく、グダンスク港、シシェチン港などからワルシャワは勿論のこと、ベルリン、プラハ、さらにはハンブルグ港、ロッテルダム港とも結ばれている。そのネットワークは北ヨーロッパをほぼ覆っており、稠密さを図ー1に見ることができる。

今ひとつは、高規格道路の整備である。

既存の西ヨーロッパの陸上輸送体系と連携の取れた東欧の輸送ルートを計画的に整備しようとする「クレタ回廊構想」がすすめられているが、グダンスク港については欧州横断回廊VI（EU Trans-European Corridor VI）を構成する拠点として、現在「A1」と呼ばれる高速道路のルートの整備が進められている。

港湾PR資料の完備

4大港とはいっても、概観は我が国の少し活発な地方の重要港湾といった印象であるが、それでも我が国とは比較にならないほど完備しているのはPRあるいはポートセールスの体制とそのための材料である。

グダンスク港でもグディニア港でも、良くデザインされたタトウに入れられた冊子、図面に加え、CD-ROMがセットになっており、後刻、スライドや動画により港湾の状況を見ることができるようになっている（図ー2）。

グダンスク港を例に取れば、①港湾紹介のパンフレット、②投資活動のための条件を紹介したパンフレット、③港湾ハンドブック、④①の内容をスライド化したCD-ROMがセットされており、さらにビデオテープも準備されている。④についてはポーランド語はもとより、独、露、英語の四カ国語のものが収まっているという念の入れようである。

図ー2　グダンスク港のPR資料